

特集陳列

# 石に魅せられた 先史時代の人びと

Thematic Exhibition  
People of the Prehistoric Eras Fascinated by Stones

人類は色々な道具を作り、使いこなすことで生活をより豊かで便利なものとしてきました。その礎となつた道具の一つが石器です。旧石器時代から縄文、続く弥生時代にも石器は使い続けられ、その一つひとつにはさまざまな物語が刻み込まれてきました。

この特集陳列では、石器を通して私たちの祖先の暮らしやその想いを皆様にお伝えします。まず、石器の材料として選ばれた各地の代表的な石材を

Mankind has made life richer and more convenient by making tools and utilizing them. Stone implements are among the most basic forms of these tools. The use of stone implements was from the Paleolithic to the Jomon and continued into the Yayoi period, with each tool carrying stories of its own.

This thematic exhibition aims to present the life and thoughts of our ancestors through tools made from stone. First we introduce representative stone materials according to region, followed by tools that supported livelihoods such as hunting and gathering. Then

紹介し、次に狩猟や採集などの生業を支えた石器、生命や自然に対する祈りなど精神世界との仲立ちをした石器を取り上げます。最後に石器を作る巧みな技に注目してその神髄に迫ります。

さらに長野県諏訪湖底曾根遺跡の石器から、湖底に眠る狩人の世界を復元するとともに、石器研究に邁進した人びとの物語もご紹介します。

we look into the implements which acted as intermediaries between the living and the spiritual world, such as for dedications and prayers for nature. Lastly, we focus on the making of these tools, by featuring sophisticated methods.

The exhibit will also look into stone implements from the Sone archaeological site of Lake Suwa, Nagano Prefecture, by recreating the world of hunters now preserved in the bottom of this lake, as well as viewing the stories of archaeologists who pushed forward with research into stone implements.

2011年8月2日火

▶10月30日日

東京国立博物館

平成館考古展示室

Tuesday, August 2-

Sunday, October 30, 2011

Tokyo National Museum Heiseikan

Japanese Archaeology Gallery

## ① さまざまな石材で

作られた石鏃(24個)

Chipped Stone Arrowheads

真岩 長2.2cm(左下)

縄文時代(後～晚期)・前2000～前400年

青森県五戸町字古街道長根出土

J-8734(江渡熊五郎氏寄贈)

黒曜石

縄文時代(草創期)・前10000～前7000年

長野県諏訪市上諏訪・湖岸通り諏訪湖底

曾根遺跡出土

J-11377・11379・11383・11386・11387

(徳川頼貞氏寄贈)

チャート・真岩

縄文時代(後～晚期)・前2000～前400年

岩手県奥州市水沢区佐倉河字杉ノ堂出土

J-11395・11396・11397・11398・11399・

11400・11402・11405・11406・11408・

11409・11412(徳川頼貞氏寄贈)

## 石器の石材

石器の原材料となる石材には、さまざまな種類と特徴があります。先史時代の人びとは、石器の用途に応じて石材を選択し、その石材の特徴にあわせた加工技術を駆使していました。たとえば、狩猟対象の獲物を突き刺す用途をもつ槍先形尖頭器やナイフ形石器<sup>②</sup>(図版番号)、石鏃<sup>①</sup>には、鋭く割れる黒曜石やチャート、真岩といった石材を選んでいます。また、どんぐりなどをすり潰すための磨石<sup>⑨</sup>や石皿<sup>⑩</sup>には、多孔質の安山岩や片理の発達した緑泥片岩などを利用しました。

この石材を選ぶ志向性の強さは、原産地が限られ、時には数百kmも離れた場所からしか産出しない石材を石器の原材料として調達するという行動も生じさせました。



## ■実用的な石器(利器・武器)

旧石器時代の実用的な石器の代表としてナイフ形石器や槍先形尖頭器、細石刃などがありますが種類は少なく、一つの石器が突く、切る、叩くという複数の機能を兼ねていたという意見があります。縄文時代になると用途に応じたさまざまな石器が作られます。狩猟具の石鎌、加工具の石匙④や石錐⑥、木を切る磨製石斧⑦や土を掘る打製石斧⑧、

### 2 ナイフ形石器

・石刃(6個)  
Backed Blades  
黒曜石 長6.7cm(右端)  
旧石器時代(後期)・前13000年  
新潟県津南町大字下船渡甲字  
十二ノ木神山出土  
J-38536(星野良氏寄贈)

### 3 彫器

・石刃(7個)  
Gravers  
頁岩 長10.2cm(右端)  
旧石器時代(後期)・前11000年  
新潟県津南町大字下船渡甲字  
十二ノ木神山出土  
J-38537(星野良氏寄贈)

### 4 石匙(1個)

Tanged Stone Scraper  
頁岩 長11.1cm  
縄文時代(後~晚期)・前2000~  
前400年  
青森県弘前市十腰内出土  
J-2012

### 5 石錐(1個)

Tanged Stone Scraper  
頁岩 長5.3cm  
縄文時代(後~晚期)・前2000~  
前400年  
青森県つがる市木造亀ヶ岡出土  
J-19965(徳川頼貞氏寄贈)

### 6 石錐(1個)

Stone Drill  
頁岩 長3.1cm  
縄文時代(後~晚期)・前2000~  
前400年  
岩手県奥州市水沢区佐倉河字  
根岸出土  
J-15640(徳川頼貞氏寄贈)

### 7 磨製石斧(1個)

Polished Stone Axe  
堆積岩 長10.3cm  
縄文時代(晚期)・前1000~  
前400年  
秋田県美郷町六郷石名館出土  
J-36592

### 8 打製石斧(1個)

Chipped Stone Axe  
片岩 長18.6cm  
縄文時代(中期)・前3000~  
前2000年  
山梨県上野原市上野原出土  
J-20716

### 9 磨石(1個)

Grind Stone  
安山岩 長10.8cm  
縄文時代(後~晚期)・前2000~  
前400年  
岩手県糸石町糸石字成田出土  
J-38430(松館富治氏寄贈)

### 10 石皿(1個)

Grinding Slab  
安山岩 長41.0cm  
縄文時代(早~晚期)・前7000~  
前400年  
青森県五戸町豊間内志戸岸出土  
J-38426(松館富治氏寄贈)

### 11 石錐(2個)

Stone Net Sinkers  
火成岩 長5.3cm(右)  
縄文時代(後~晚期)・前2000~  
前400年  
静岡県浜松市天竜区佐久間町  
半塚出土  
J-22282

### 12 石包丁(1個)

Stone Rice Re却  
粘板岩 長14.1cm  
弥生時代(中期)・前2~前1世紀  
福島県郡山市小原田出土  
J-1319

### 13 大型蛤刃石斧(1個)

Polished Stone Axe  
硬質凝灰岩 長17.1cm  
弥生時代(中期)・前2~前1世紀  
神奈川県横須賀市馬骨出土  
J-8682(蘆高朗氏寄贈)

### 14 挿入柱状片刃石斧(1個)

Grooved Stone Adze  
硬質凝灰岩 長21.2cm  
弥生時代(中期)・前2~前1世紀  
九州地方出土  
J-34851

### 15 磨製石劍(1個)

Polished Stone Dagger  
粘板岩 長16.2cm  
弥生時代(中期)・前2~前1世紀  
福岡県嘉麻市鶴生字別田出土  
J-7629

### 16 磨製石錐(1個)

Polished Stone Arrowhead  
粘板岩 長4.6cm  
弥生時代(後期)・1~3世紀  
長野県松本市中山道原出土  
J-10925(徳川頼貞氏寄贈)

### 17 磨製石斧(1個)

Polished Stone Axe  
堆積岩 長10.3cm  
縄文時代(晚期)・前1000~  
前400年  
秋田県美郷町六郷石名館出土  
J-36592

### 18 打製石斧(1個)

Chipped Stone Axe  
片岩 長18.6cm  
縄文時代(中期)・前3000~  
前2000年  
山梨県上野原市上野原出土  
J-20716

### 19 石棒(1個)

Stone Rod  
堆積岩 長83.8cm  
縄文時代(前期)・前4000~  
前3000年  
山形県西村山郡朝日町  
石須部出土  
J-37060(小原勘蔵氏寄贈)

### 20 石劍(1個)

Double Edged Stone Club  
堆積岩 長41.7cm  
縄文時代(後~晚期)・前2000~  
前400年  
出土地不詳  
J-19741(徳川頼貞氏寄贈)

### 21 石刀(1個)

Sword Shaped Stone Object  
堆積岩 長28.6cm  
縄文時代(後~晚期)・前2000~  
前400年  
岐阜県加茂郡白川町佐見出土  
J-1407

### 22 独鉛石(1個)

Vajra Shaped Stone Object  
堆積岩 長18.5cm  
縄文時代(後~晚期)・前2000~  
前400年  
岩手県奥州市衣川村出土  
J-14125

### 23 御物石器(1個)

Gyobutsu Ritual Stone Object  
堆積岩 長27.1cm  
縄文時代(後~晚期)・前2000~  
前400年  
岐阜県飛驒市宮川町出土  
J-1467(柏木萬氏寄贈)

### 24 環状石斧(1個)

Discoidal Stone Mace-head  
堆積岩 長12.1cm  
弥生時代・前4~3世紀  
出土地不詳  
J-1423

### 25 磨製石劍(1個)

Polished Stone Dagger  
粘板岩 長27.3cm  
縄文時代(中期)・前2~前1世紀  
宮城県仙台市林区  
旧仙台飛行場付近出土  
J-36635-11

## 石器の名称

石器の名は形から推測される機能や用途から名づけられることが一般的で、石斧などがその一例にあげられます。さまざまな種類からなる石斧は、加工方法やその部位そして形など最もよく示す特徴を名に付け加え、局部磨製石斧や分銅形(打製)石斧や、挿入柱状片刃(磨製)石斧と呼ばれます。

一方、天皇の所有をあらわす御物に因んだ御物石器②やアメリカ原住民の使った石鎌に似ていたアメカ式石鎌③、そして表面がよく磨かれたトロトロ石器④などさまざまな由来からユニークな名前をつけられた石器があります。石器の名称の由来を調べることで、石器研究者の視点や石器の魅力に引き寄せられた人びとの考え方を知ることもできます。



26 トロトロ石器  
Arrowhead Shaped Ritual Stone Object  
チャート 長6.5cm  
縄文時代(早期)・前7000~前4000年  
新潟県小千谷市片貝町出土  
J-14772(徳川頼貞氏寄贈)



27 アメリカ式石鎌  
Chipped Stone Arrowhead  
チャート 長2.0cm  
縄文時代(後期)・1~3世紀  
長野県飯田市座光寺出土  
J-12130(徳川頼貞氏寄贈)



10

## ■祈りを捧げるための石器・石製品(儀器・祭器)

旧石器時代の石で作られた装身具や儀器はきわめて数が少ないものの、小玉などの首飾りや線刻がほどこされた石が見つかっています。縄文時代になると装身具と儀器は種類と数が増します。装身具では首飾りや胸飾りとなる玉類が多くなります。儀器では石棒⑩や石劍⑪、石刀⑫が代表で、独鉛石⑬や御物石器⑭などがあります。また文様を刻んだ岩版や人形を模した岩偶や石偶も作られました。実用的な石器の中には墓に副葬される例もあります。その中には高度な技術に裏打ちされたみごとな石器も見ることができます。弥生時代では当初武器として使われた磨製石劍⑮や磨製石戈⑯は、時期が新しくなるとともに副葬されることが多くなり、儀器や祭器として用いられたと考えられています。



11



12



13



14



15



16



17



18

## 石器の模造と蒔田鎌次郎

石器の作り方を考える一つの手段として、石器が作られた当時入手できる道具で石器の模造(製作)を試みる方法があります。

石鎌を例にあげると、その製作方法や順序について明治10年代頃から坪井正五郎や白井光太郎らが欧米の文献や民族事例をもとに議論しています。彼らが復原した製作手順は現在の石器研究でも十分に通用するものです。彼らの研究仲間の蒔田鎌次郎がガラスと黒曜石で具体的にこれを再現しています。蒔田は「弥生式土器」について初めて活字にした研究者としても著名です。



17 模造 石鎌(25個)  
Chipped Arrowheads (Glass Reproductions)  
ガラス 長5.3cm(最大)  
明治時代・19~20世紀  
蒔田鎌次郎作  
J-10920(徳川頼貞氏寄贈)



# 石器を作るための技術

石器を作る際、まずその原材料となる原石を得ます。私たちがリンゴの皮をむいて中身を食べるのと同じように、原石の表面を打ち剥がし、目的に適う素材を効率よく作り出します。その素材をさらに細かく加工して特定の形の石器を仕上げていきます。そして石器の素材を取り尽くした後は、リンゴの芯を捨てるようになくなった部分（残核）は廃棄します。

目的の石器を作るために、どんな原材料がどれくらい必要なのかを理解し、それがどこに、どのよう

な状況で存在しているか、どうすれば上手に用意できるかを知ること、またその手段を考えることは、すべて技術の一部と言えます。それゆえに石器の製作過程と技術は、それぞれの文化や社会を反映しており、それを調べることは当時の人びとの生きる知恵を知ることにもつながります。



## 製作者の意図を体験する展示映像

これまで石器の製作方法の展示を行なう場合は、作品解説やケース内での並べ方を工夫したり、2次元の映像資料などを使用して説明をしていました。今回の展示では製作者の意図をより理解するために、これまでの方法とあわせて「Stereo Stage」という3D映像閲覧

技術を使用しています。この技術により石器の製作過程がはっきりわかるとともに、石器がまさにその場にあるような臨場感が得られます。これにより、石器を自分の両手の中に収めたようなイメージをもって、製作者の視点に近い体験的な理解が得られます。

### 石器の剥離過程を示す立体映像

Stereo Stageは株式会社アヌ、森田正彦（慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科）が共同開発した立体映像制作技術です。

石器の模造品製作は小菅将夫（岩宿博物館館長）、三次元計測は株式会社ラシングによるものです。

## 湖底に眠る狩人の世界

長野県諏訪湖の東岸約450mの沖合、水深約2mの湖底に曾根遺跡があります。採集された石鏃の数は現存で3000点を超えており、未完成品やその数を上回る石屑も採集されていることから、石鏃を大量に製作していたことがわかります。ここで作られた石鏃の特徴は長い逆刺をもつことです。遺跡の北東には黒曜石の原産地、霧ヶ峰をひかえ、同時期には地下に埋没している黒曜石の採掘も始まっていました。当時の狩人たちはそこから調達した黒曜石に加え、その他の産地からもさまざまな石材を携えて湖畔に集まりました。

本遺跡は、漁師の覗き探りの際に湖底から石器が掻きあげられたことをきっかけに発見され、その後発見者の橋本福松や坪井正五郎（東京帝國大学理科大学人類学教室）、野中完一（二条家飼鷹坊陳列館）によって湖上に舟を浮かべて調査が行なわれました。湖底から太古の石器や土器が採集されるという謎は大きく膨らみ、そこに暮らした人びとがどこから来たのか、またどんな生活をしていたのかなど多くの議論を巻き起こしました。

石器に魅せられた研究者は、資料を集めて分類し、さらに詳細に観察してその製作技術を知ることに邁進します。それは、石器に当時の人びとのさまざまな記憶が凝縮しているとともに、石器を作ることで培った生きる英知を学ぶことができるからです。



絵葉書「坪井博士諏訪湖ニ於テ  
そね石器時代遺物ノ調査ノ光景」  
個人蔵



## 石器を学ぶための おすすめ文献

阿古島香『石器の使用痕』ニュー・サイエンス社 1989年

加藤晋平・鶴丸俊明『図録・石器入門事典 先土器』柏書房 1991年

鈴木道之助『図録・石器入門事典 縄文』柏書房 1991年

平井勝『弥生時代の石器』ニュー・サイエンス社 1991年

大沼克彦『文化としての石器づくり』学生社 2002年

坂詰秀一編『石の考古学』季刊考古学 第99号 雄山閣 2007年

堤隆『ビジュアル版 旧石器時代ガイドブック』

シリーズ「遺跡を学ぶ」別冊 新泉社 2009年

各図版に付したデータは作品名称、材質、長さ、年代、出土地、所蔵機関および所蔵者（なお東京国立博物館所蔵の場合は別品番号や寄贈者）を記した。

\*平成23年8月2日発行



執

筆：井上洋一・品川欣也・及川穂・河内晋平  
(以上、東京国立博物館)、森田正彦(慶應義塾  
大学大学院 政策・メディア研究科)

英 文 翻 訳：東京国立博物館国際交流室

撮 影：藤瀬雄輔(東京国立博物館)

編 集・発 行：東京国立博物館

デザイン・制作：DNP アートコミュニケーションズ

©2011 東京国立博物館